

耕作放棄地を耕すために導入した「レンタカウ」は坂田さんの相棒だ



本当にこの道で合っているのだろうか？地図を確認し、慎重に細い山道を登った先に築100年を超える古民家があります。ここで民宿を営んでいるのが坂田修作さんです。

大阪市内で生まれ育った坂田さんは生き物が大好きな少年でした。都会の中で見つけるさまざまな生き物を飼育していました。特に魚に興味があり「将



ここに若者が息づくための道筋を作りたい

来は魚に関わる仕事に就きたい」という夢を抱きます。京都大学で水産学を学び、卒業後は大手石油会社に就職した坂田さん。微生物を利用した技術開発や下松の笠戸ヒラメの養殖研究にも携わりました。多忙な日々を過ごしながらも、仕事は充実しており、着実にキャリアアップを重ねていきます。

しかしアメリカのバイオ企業社長を務め帰国した52歳の頃、坂田さんの中にある思いが芽生えます「一度きりの人生をこのまま過ごしても良いのか。社会に役立つような仕事ができるのなら挑戦してみたいのではないか」一次産業や地方創生に関心を抱いていた坂田さんは日本各地の中山間地域を巡る旅を始めました。その中で立ち寄った場所の1つが、こ

こ「和樂の里」です。何度か足を運ぶうち、当時1人で民宿を切り盛りしていた藤森和子さんから「ここを継承してもらえないか」と話を持ち掛けられます。すぐに答えは出さず、悩む坂田さんですが、引き受けることに決めました「祖生は豊かな農林水産資源に恵まれ、交通の利便性も良い。自分が目指している地方創生の場所になるという勤もあつたんです」こうして横浜に住む妻と子供を説得し、2019年、57歳の時に単身で岩国に移り住みました。

Vol.150

坂田 修作さん  
(周東町在住)

周東町祖生の山里民宿「和樂の里」代表。特技は水泳で、学生時代から競泳と水球を続けており、元マスターズの日本記録保持者。妻と3人の子供がいる。座右の銘は「為せば成る」

新たなフェーズに入り、会社員時代とは違う多忙な日々を送る現在の坂田さん。民宿の経営だけでなく、地域の人に支えられながら、耕作放棄地を耕し農作物の栽培や特産品の生産を行っています「ご縁があったこの地で、自然資源を生かした中山間地域の振興に尽力し、若い人を呼び込む礎になりたい」と静かに、熱く語ってくれました。



種から育てたワサビの苗の植え付けを営農塾の後輩に指導する坂田さん（手前左）



雨上がりなどに和樂の里から見られる雲霧はまさに絶景

